

クリナーゼ APSSL-1311N

トリプル酵素

◆ 本製品の特徴

クリナーゼクリナーゼ APSSL-1311Nはプロテアーゼ（蛋白分解酵素）、アミラーゼ（澱粉分解酵素）、リパーゼ（脂肪分解酵素）の3種類の酵素を配合した顆粒製品です。汚れは様々な成分で出来ていますが、それぞれ皮脂や油（リパーゼ）、ごはんのネバツキやケチャップなどの増粘多糖類を含む汚れ（アミラーゼ）、血液や肉汁の汚れ（プロテアーゼ）に効果のある3種類の酵素を配合することにより、汚れの種類を問わず分解除去する効果が現れます。

又、一般的な洗浄は中性~弱アルカリ迄で行われるため、中性~弱アルカリで高い活性を持つ酵素を選別し配合しております。

◆ クリナーゼ APSSL-1311N の性質

1. 作用pH pH 7.0~9.0 の中性~弱アルカリ領域。
2. 作用温度 作用最適温度は 50~60℃付近で最も効果は発揮します。それ以上の高温になるとほぼ正比例して酵素活性は上がりますが、相対的に酵素が失活していきます
3. 阻害物質 酵素はタンパク質ですので、一般のタンパク質変性剤、過酸化水素、次亜塩素酸などの酸化剤、沈殿剤などは作用を阻害します。また、 Hg^{+} 、 Co^{2+} 、 Cu^{2+} 、 Zn^{2+} などの重金属イオンなども活性を阻害します。液性を酸性にすると不可逆的に酵素が失活します。

◆ 製品規格

| 試験項目 | 規格値 | |
|-------------|----------|-------------------------------|
| 外 観 | 淡褐色顆粒状 | |
| 酵素力価(pH7.0) | プロテアーゼ | 68,000PU/g 以上 (代表値 85,000) |
| | アミラーゼ | 4,800AU/g 以上 (代表値 6,000) |
| | リパーゼ | 640LU/g 以上 (代表値 800) |
| pH(1%、25℃) | 6.0~10.0 | |
| 比重(g/ml) | 1.0~1.2 | |

□ 酵素単位の定義

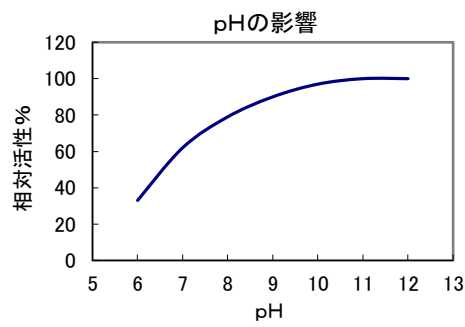
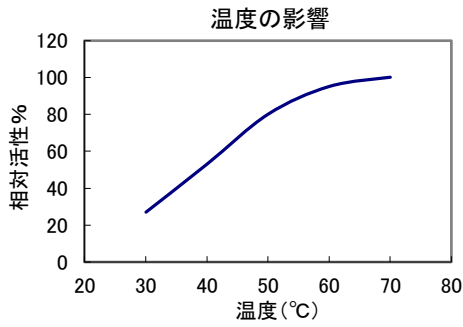
- プロテアーゼ
2%カゼイン（pH7.0、リン酸バッファー）5mlに1mlの酵素溶液を加えた後、40℃、10分間反応させた時、1分間に1μgのチロシンに相当するフォリン発色をTCA可溶性成分として遊離する活性を1単位（PU/g）とします。
- アミラーゼ
1%でんぷん溶液（pH7.0、リン酸バッファー）1mlに1mlの酵素溶液を加えた後、40℃、30分間反応させた時、完全に加水分解する活性を1単位（AU/g）とする。
- リパーゼ
オリーブ油100mlと2%PVA150mlを乳化させ基質とする。基質5mlとマッキルベン緩衝液（pH7.0）4ml及び、酵素液1mlを混和し37℃で1分間反応させる。反応を停止した後0.05N NaOHにて滴定する。上記条件下において1分間にオレイン酸1μmoleに相当する酸を遊離する活性を1LU/gとする。

◆ 荷姿

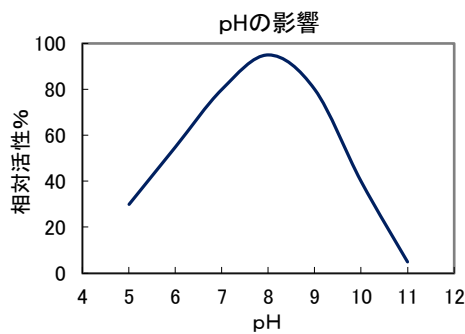
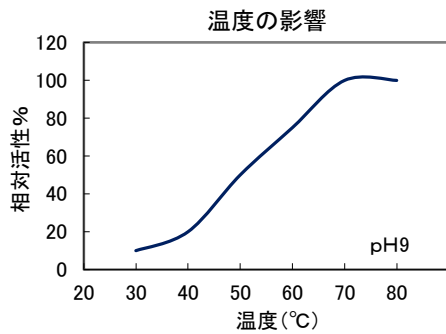
15 kg C/S

◆ 安定性データ

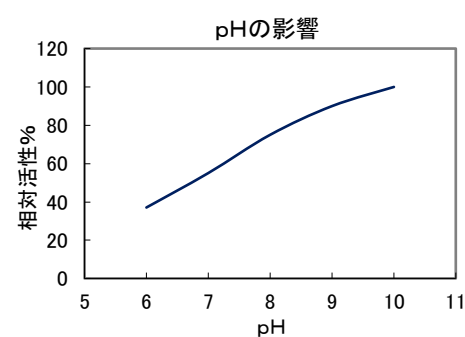
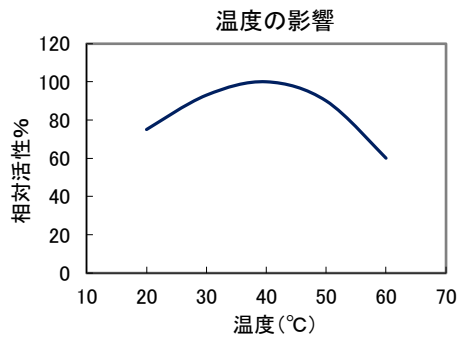
プロテアーゼ



アミラーゼ



リパーゼ



取扱上の注意

- 本製品は酵素製品です、直射日光のあたるところや高温の場所を避け、出来るだけ涼しい場所に保管して下さい。
- 水温が低いと酵素の働きが悪くなります。水温は 20℃以上を保ちお使い下さい。
- 絹製品は経年劣化により、生地を傷める場合があります。※³
※³ 結晶性の絹繊維は分解しませんが、経年劣化によりほつれた部分や繊維が断裂しているような場所では分解が起こります。
- 発生した粉末が直接皮膚と接触しないように必要に応じて保護メガネ、保護面、保護手袋等の保護具を着用すること。
- 目に入った場合は流水で十分洗い流し、異常がある場合は速やかに眼科医を受診する。
- 飲み込んだ場合は、無理に吐かずに水や牛乳を飲み医師に相談する。

販売・お問い合わせ先



日本酵研株式会社

本社 〒530-0038

大阪市北区紅梅町 1-7 久幸ビル 3F

TEL 06-6354-1821(代表) FAX 06-6351-1888

Email : koken@abeam.ocn.ne.jp